

厚生労働省山口労働局発表
令和元年11月25日（月）

【照会先】

山口労働局職業安定部職業対策課
職業対策課長 瀬田 浩孝
高齢者対策担当官 佐々木堅造
電 話 083(995)0383

66歳以上働ける山口県内の企業が増加しています

～山口県内の令和元年「高年齢者の雇用状況」集計結果～

山口労働局(局長 村井 完也)では、このほど、山口県内の企業において、高年齢者を65歳まで雇用するための「高年齢者雇用確保措置」の実施状況などを集計した、令和元年「高年齢者の雇用状況」(6月1日現在)を取りまとめましたので、公表します。

今後とも、生涯現役で働くことのできる社会の実現に向けたさらなる取組を行うとともに、山口労働局、ハローワークによる計画的かつ重点的な指導を実施していきます。

【主なポイント】

I 65歳までの高年齢者雇用確保措置のある企業の状況

- ① 「65歳までの高年齢者雇用確保措置のある企業」は 99.9% (対前年変動なし)
 - ・ 全国は99.8% (対前年変動なし)
- ② 「65歳定年企業」は 20.3% (対前年1.4ポイント増加)
 - ・ 全国は17.2% (対前年1.1ポイント増加)

II 66歳以上働ける制度のある企業の状況

- ① 「66歳以上働ける制度のある企業」は 37.1% (対前年3.7ポイント増加)
 - ・ 全国は30.8% 対前年3.2ポイント増加)
- ② 「70歳以上働ける制度のある企業」は 35.2% (対前年3.5ポイント増加)
 - ・ 全国は28.9% (対前年3.1ポイント増加)

※ 令和元年「高年齢者の雇用状況」集計結果の概要（最終ページに添付）をご参照ください。

< 参考 >

【高年齢者の雇用状況の集計結果について】

- 1 高年齢者が年齢にかかわらず働き続けることができる生涯現役社会の実現に向け、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」では65歳までの安定した雇用を確保するため、企業に「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」のいずれかの措置(高年齢者雇用確保措置)を講じるよう義務付け、毎年6月1日現在の高年齢者の雇用状況の報告を求めています。
- 2 今回の集計結果は、この雇用状況を報告した従業員31人以上の県内企業1,672社の状況をまとめたものです。
中小企業(31～300人規模):1,558社
大企業(301人以上規模): 114社
- 3 集計結果の詳細は、次頁以降をご参照ください。

1 高齢者雇用確保措置の実施状況

(1) 全体の状況

高齢者雇用確保措置(以下「雇用確保措置」という。(注))の実施済企業は1,670社、99.9%[変動なし]となっている。

雇用確保措置が未実施である企業は2社、0.1%[変動なし]、31～50人規模企業で1社、101～300人規模企業で1社、運輸・郵便業、医療・福祉となっている。(11ページ表1、2)

(注)雇用確保措置

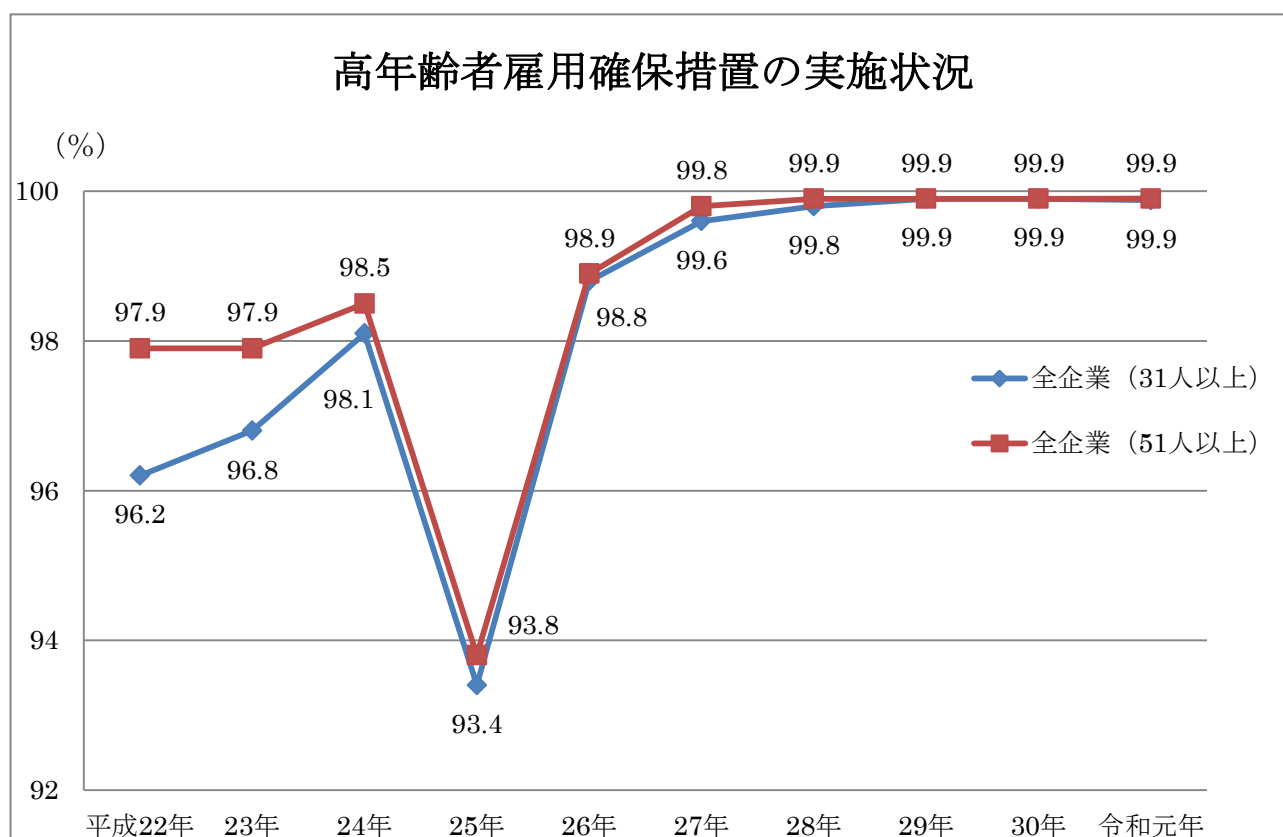
高齢者等の雇用の安定等に関する法律第9条第1項に基づき、定年を65歳未満に定めている事業主は、雇用する高齢者の65歳までの安定した雇用を確保するため、以下のいずれかの措置(高齢者雇用確保措置)を講じなければならない。

- (ア) 定年制の廃止
- (イ) 定年の引上げ
- (ウ) 継続雇用制度(再雇用制度・勤務延長制度等※)の導入

※ 継続雇用制度とは、現に雇用している高齢者が希望するときは、当該高齢者をその定年後も引き続いて雇用する制度をいう。なお、平成24年度の法改正により、平成25年度以降、制度の適用者は原則として「希望者全員」となった。ただし、24年度までに労使協定により継続雇用制度の対象者を限定する基準を定めていた場合は、その基準を適用できる年齢を平成37年度までに段階的に引き上げているところ(経過措置)。

(2) 企業規模別の状況

雇用確保措置の実施済企業の割合を企業規模別に見ると、大企業では114社、100.0%[変動なし]、中小企業では1,556社、99.9%[変動なし]となっている。(11ページ表1)



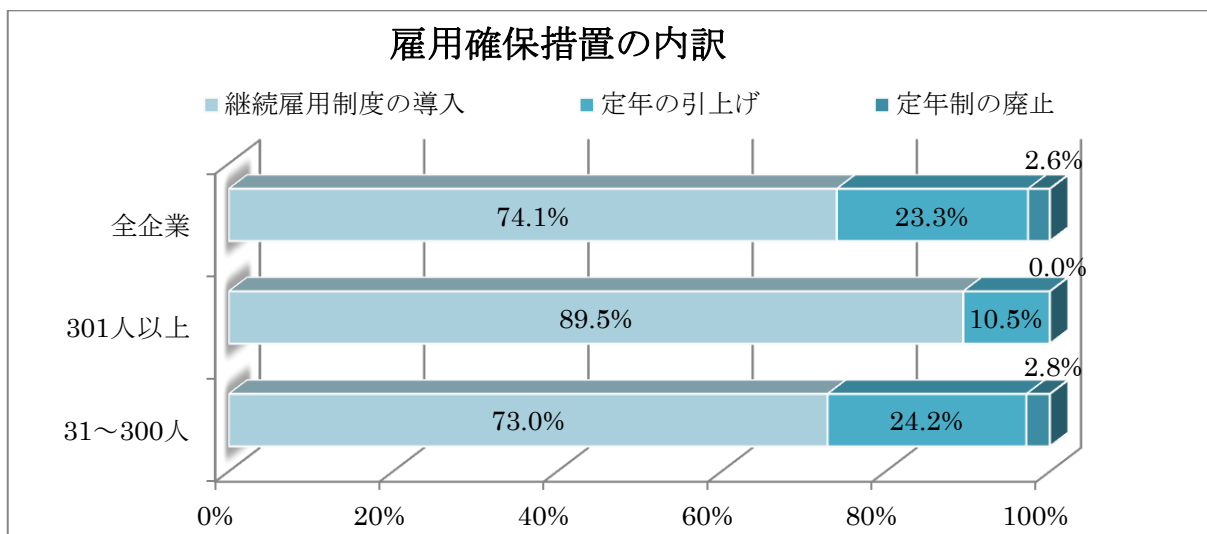
※ 平成25年4月に制度改正(継続雇用制度の対象者を限定できる仕組みの廃止)があったため、平成24年と25年の数値は単純比較できない。

(3) 雇用確保措置の内訳

雇用確保措置の実施済企業のうち、

- ① 「定年制の廃止」により雇用確保措置を講じている企業は44社[2社減少]、2.6% [0.2ポイント減少]、
- ② 「定年の引上げ」により雇用確保措置を講じている企業は389社[42社増加]、23.3% [2.3ポイント増加]、
- ③ 「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業は1,237社[21社減少]、74.1% [2.1ポイント減少]

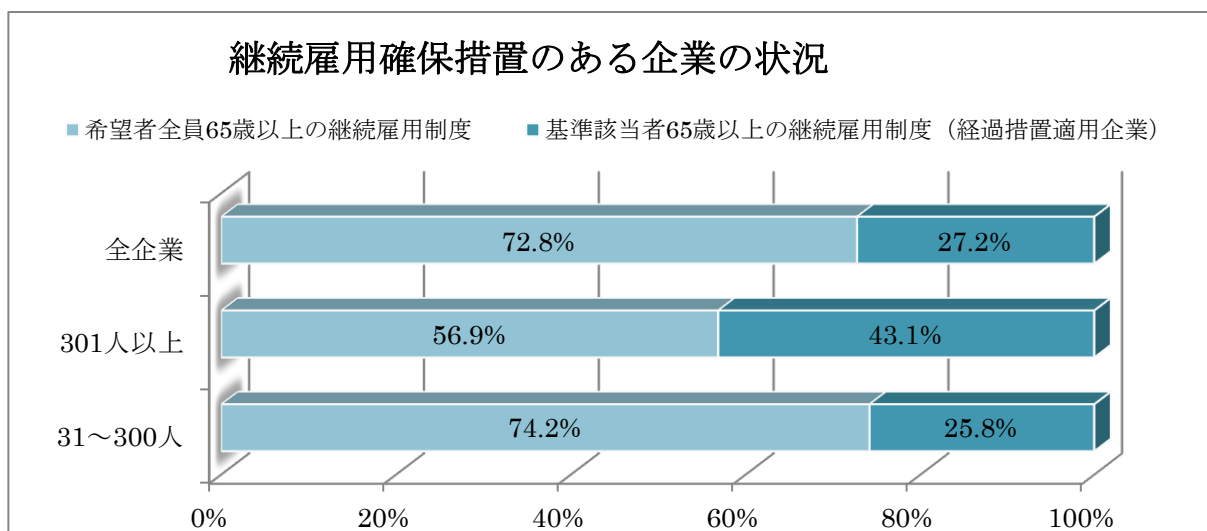
となっており、定年制度(①、②)により雇用確保措置を講じるよりも、継続雇用制度(③)により雇用確保措置を講じる企業の比率が高い。(12ページ表3-1)



(4) 継続雇用確保措置のある企業の状況

「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業1,237社のうち、

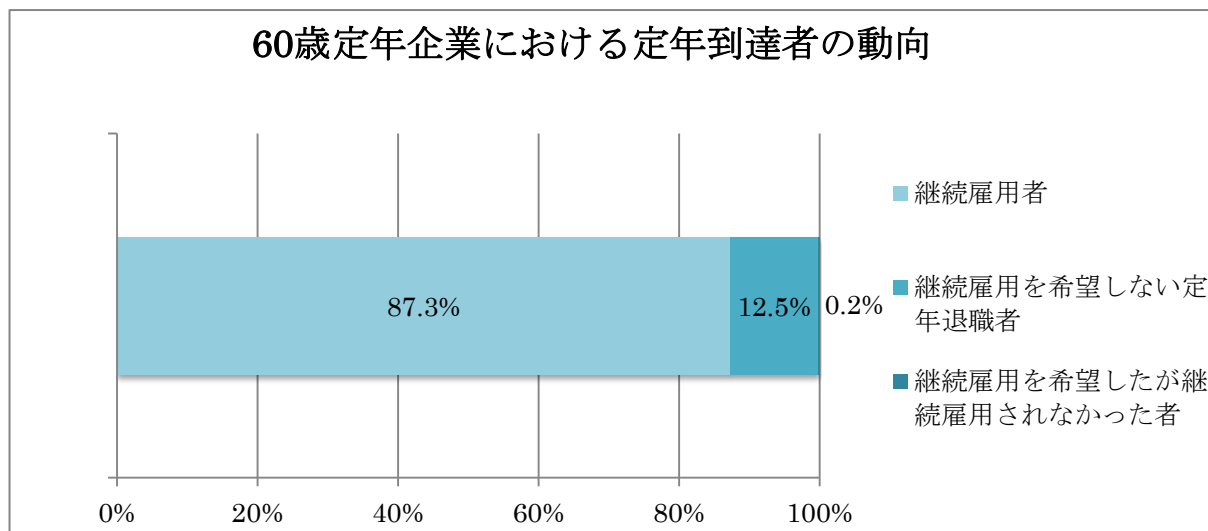
- ① 希望者全員を対象とする65歳以上の継続雇用制度を導入している企業は900社[33社増加]、72.8% [3.9ポイント増加]、
- ② 高年齢者雇用安定法一部改正法の経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準がある継続雇用制度を導入している企業(経過措置適用企業)は337社 [54社減少]、27.2% [3.9ポイント減少]となっている。(12ページ表3-2)



2 60歳定年到達者の動向

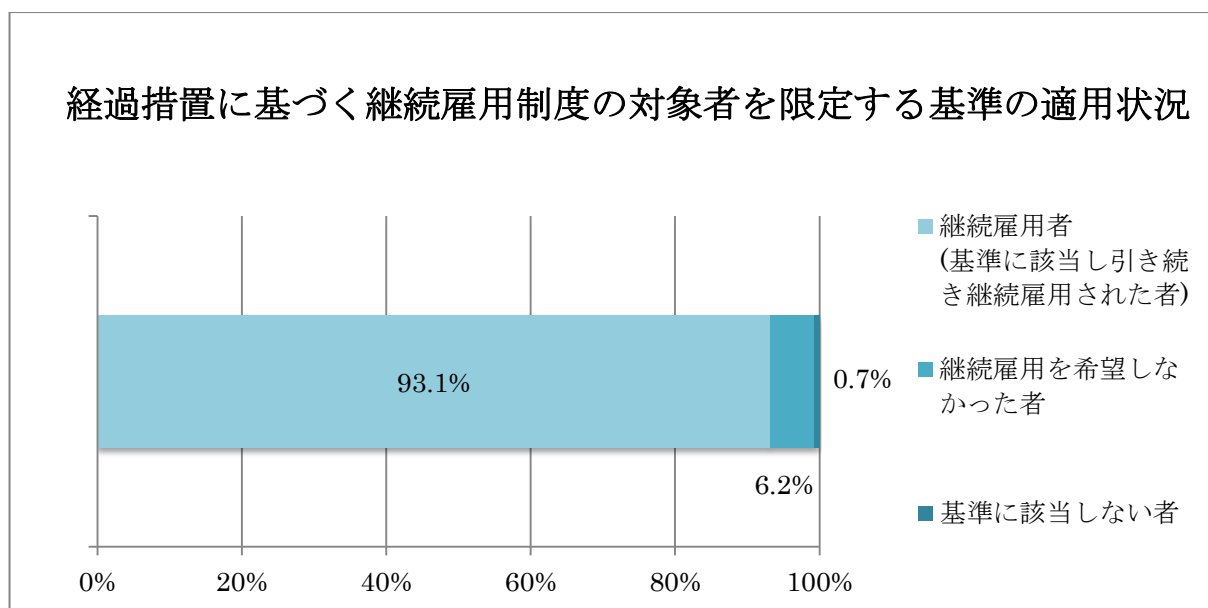
(1) 60歳定年企業における定年到達者の動向

過去1年間(平成30年6月1日から令和元年5月31日)の60歳定年企業における定年到達者2,668人のうち、継続雇用された者は2,329人(87.3%) (うち子会社・関連会社等での継続雇用者は35人)、継続雇用を希望しない定年退職者は333人(12.5%)、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった者は6人(0.2%)となっている。(13ページ表4-1)



(2) 経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準の適用状況

平成30年6月1日から令和元年5月31日までの間に、経過措置に基づく対象者を限定する基準がある企業において、基準を適用できる年齢(平成31年4月1日以降は63歳)に到達した者727人のうち、基準に該当し引き続き継続雇用された者は677人(93.1%)、継続雇用の更新を希望しなかった者は45人(6.2%)、継続雇用を希望したが基準に該当せず継続雇用が終了した者は5人(0.7%)となっている。(13ページ表4-2)

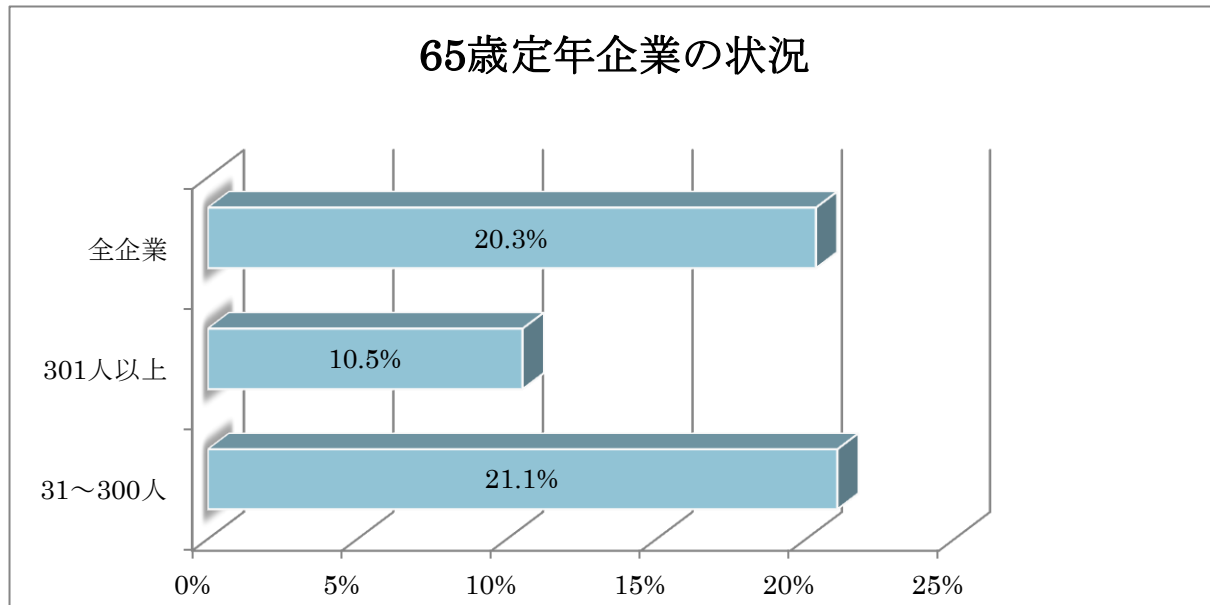


3 65歳定年企業の状況

定年を65歳とする企業は340社[28社増加]、報告した全ての企業に占める割合は20.3%[1.4ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では328社[27社増加]、21.1%[1.5ポイント増加]、
- ② 大企業では12社[1社増加]、10.5%[1.0ポイント増加]となっている。(14ページ表5)



4 66歳以上働ける制度のある企業の状況

(1) 66歳以上働ける制度のある企業の状況

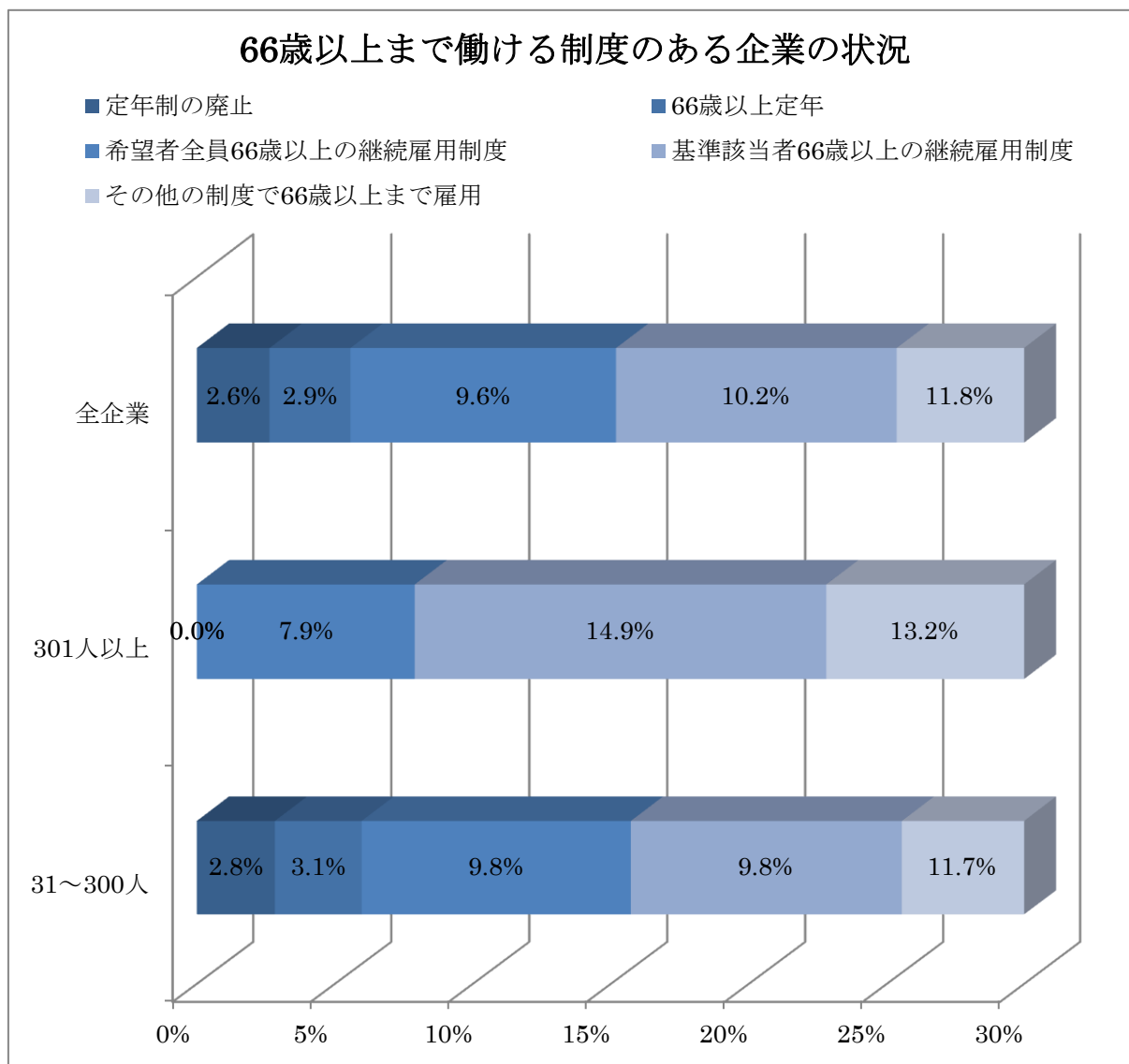
66歳以上働ける制度のある企業は621社[69社増加]、報告した全ての企業に占める割合は37.1%[3, 7ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

① 中小企業では580社[66社増加]、37.2%[3, 8ポイント増加]、

② 大企業では41社[3社増加]、36.0%[3, 2ポイント増加]

となっている。(15ページ表6)



※ 66歳以上定年制度と66歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「66歳以上定年」のみに計上している。

※ 「その他の制度で66歳以上まで雇用」とは、希望者全員や基準該当者を66歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで66歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

(2) 70歳以上働ける制度のある企業の状況

70歳以上働ける制度のある企業は、588社[64社増加]、報告した全ての企業に占める割合は35.2%[3.5ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では549社[62社増加]、35.2%[3.5ポイント増加]、
 - ② 大企業では39社[2社増加]、34.2%[2.3ポイント増加]
- となっている。(15ページ表7)

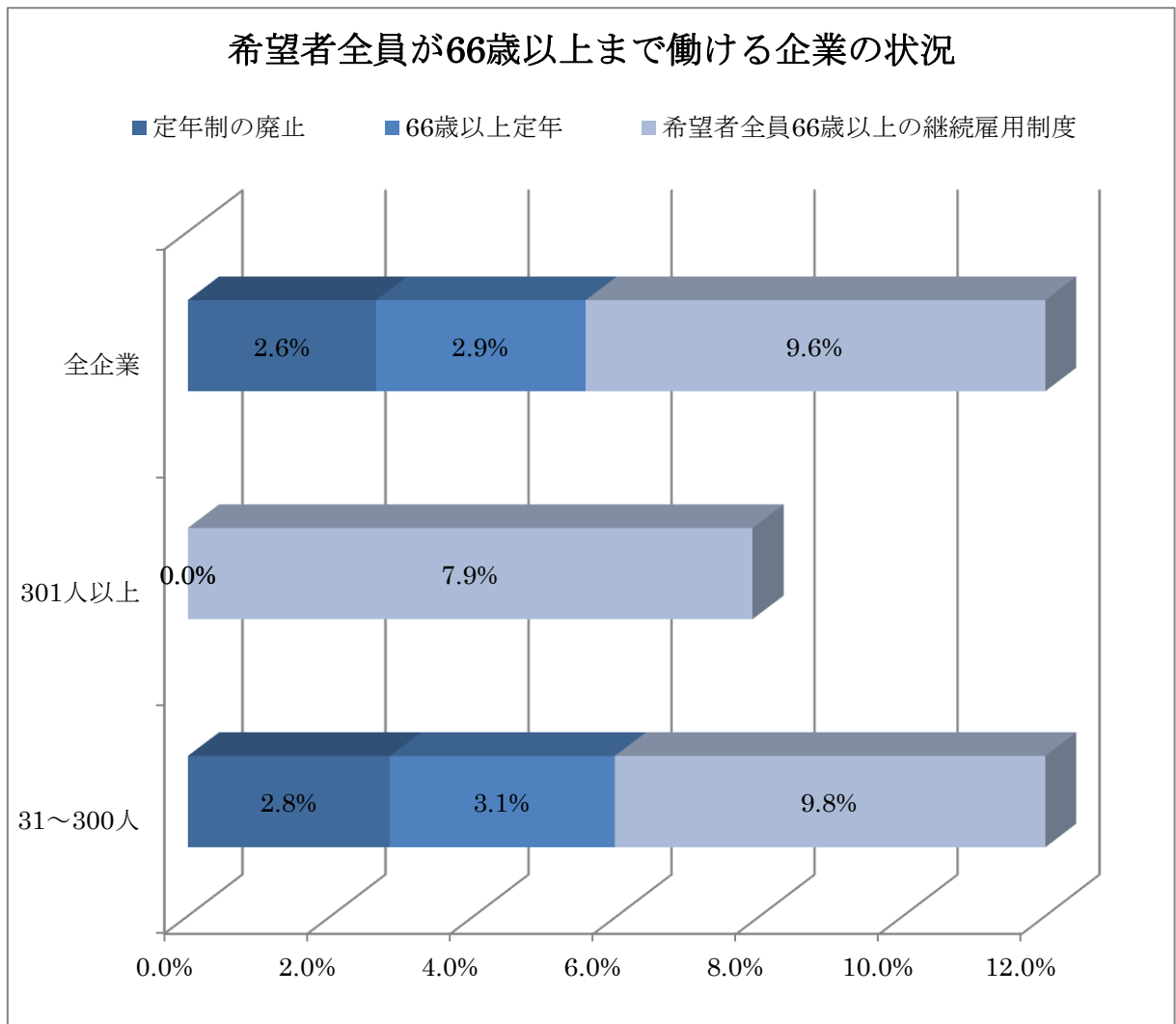
5 希望者全員が66歳以上働ける企業の状況

(1) 希望者全員が66歳以上働ける企業の状況

希望者全員が66歳以上まで働ける企業は254社[44社増加]、報告した全ての企業に占める割合は15.2%[2.5ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では245社[44社増加]、15.7%[2.6ポイント増加]、
- ② 大企業では9社[増減なし]、7.9%[0.1ポイント増加]となっている。(15ページ表6)



(2) 定年制廃止および66歳以上定年企業の状況

① 定年制を廃止している企業は、44社[2社減少]、報告した全ての企業に占める割合は2.6%[0.2ポイント減少]となっている。

企業規模別に見ると、

ア 中小企業では44社[2社減少]、2.8%[0.2ポイント減少]、

イ 大企業では0社[変動なし]、0.0%[変動なし]

となっている。

② 定年を66～69歳とする企業は、19社[4社増加]、報告した全ての企業に占める割合は1.1%[0.2ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

ア 中小企業では19社[4社増加]、1.2%[0.2ポイント増加]、

イ 大企業では0社[変動なし]、0.0%[変動なし]

となっている。

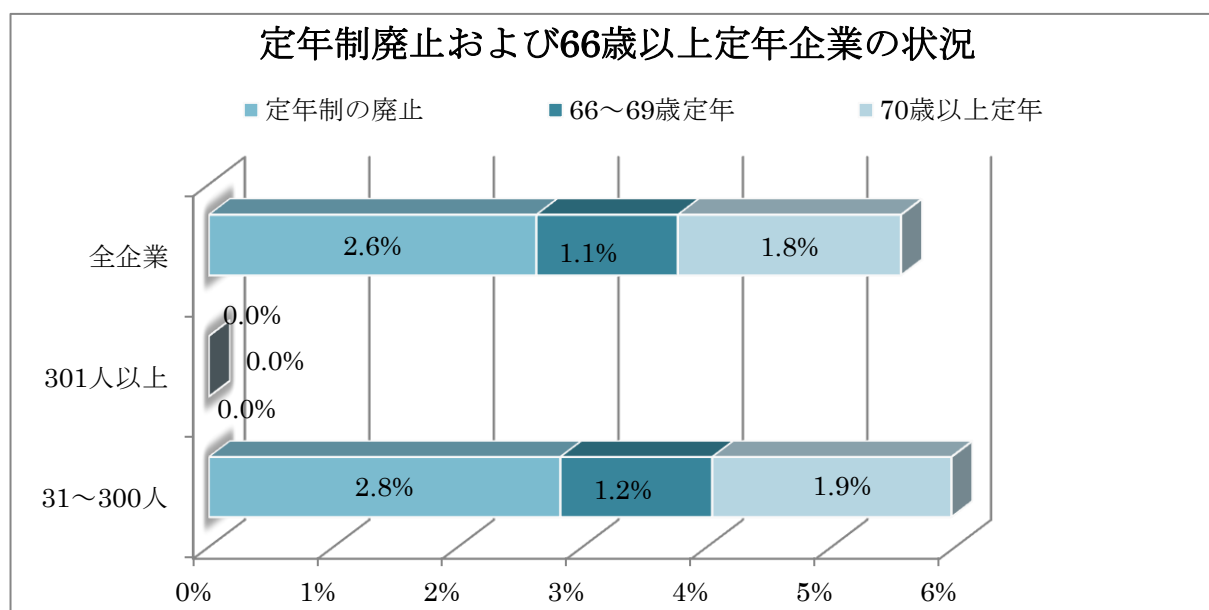
③ 定年を70歳以上とする企業は、30社[10社増加]、報告した全ての企業に占める割合は1.8%[0.6ポイント増加]となっている。

企業規模別に見ると、

ア 中小企業では30社[10社増加]、1.9%[0.6ポイント増加]、

イ 大企業では0社[変動なし]、0.0%[変動なし]

となっている。(14ページ表5)



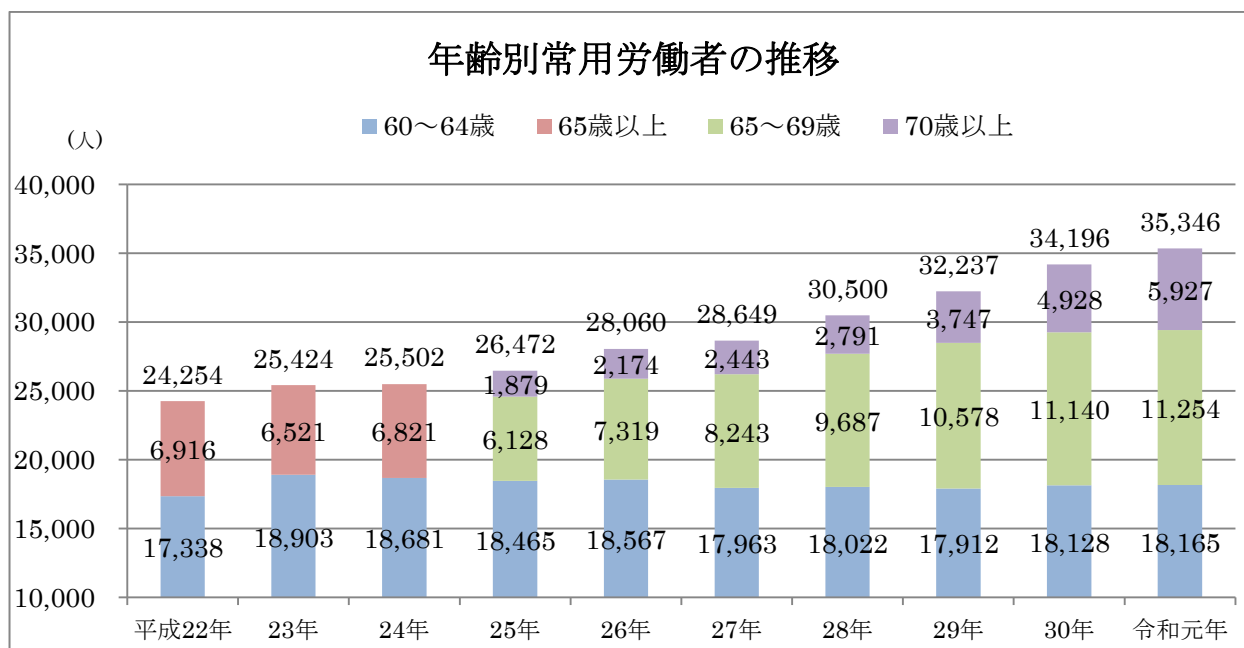
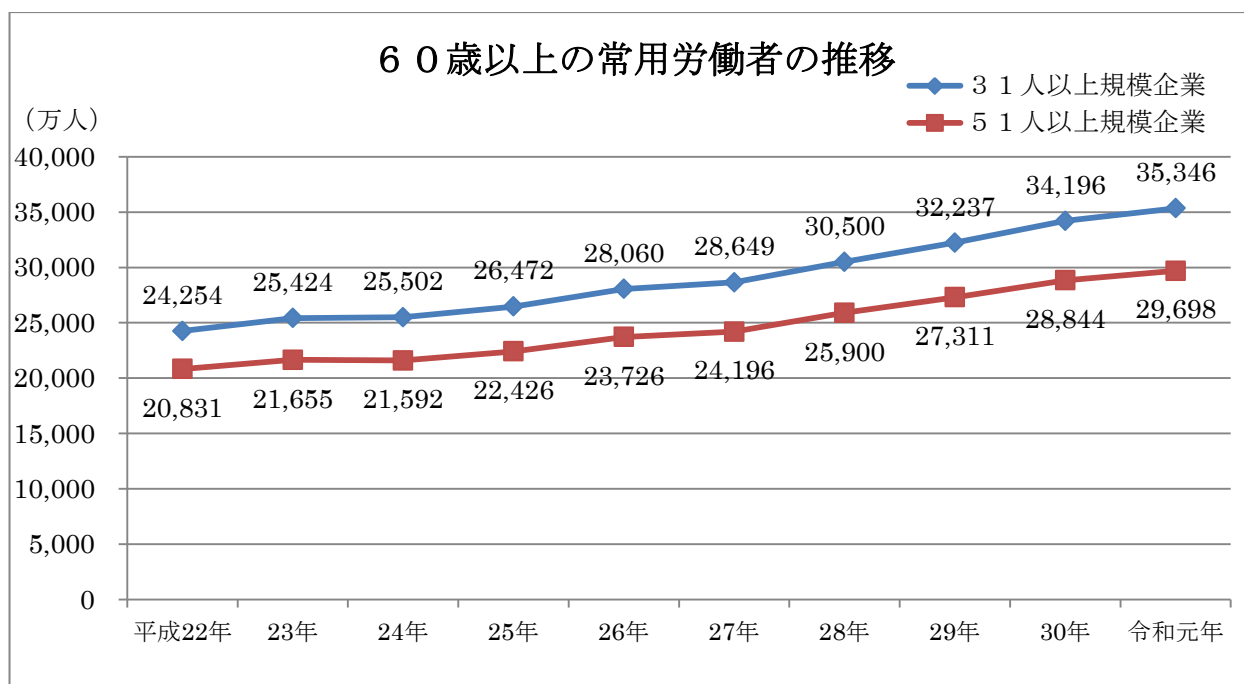
6 高齢労働者の状況

(1) 年齢階級別の常用労働者数について

31人以上規模企業における常用労働者数236,829人のうち、60歳以上の常用労働者数は35,346人で14.9%を占めている。年齢階級別に見ると、60～64歳が18,165人、65～69歳が11,254人、70歳以上が5,927人となっている。(18ページ表9)

(2) 雇用確保措置の義務化後の高齢労働者の推移

51人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は29,698人であり、雇用確保措置の義務化前(平成17年)と比較すると、19,403人増加している。31人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は35,346人であり、平成21年と比較すると、14,008人増加している。(18ページ表9)



※ 31人以上規模企業の状況

※ 平成21～24年は65歳以上に70歳以上も含まれている。

表1 雇用確保措置の実施状況

(社、%)

	①実施済み		②未実施		合計(①+②)	
31~300人	1,556	(1,535)	2	(02)	1,558	(1,537)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
31~50人	660	(634)	1	(01)	661	(635)
	99.8%	(99.8%)	0.2%	(0.2%)	100.0%	(100.0%)
51~300人	896	(901)	1	(01)	897	(902)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	114	(116)	0	(00)	114	(116)
	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	100.0%	(100.0%)
31人以上 総計	1,670	(1,651)	2	(02)	1,672	(1,653)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
51人以上 総計	1,010	(1,017)	1	(01)	1,011	(1,018)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)

※ ()内は、平成30年6月1日現在の数値。

表2 規模別・産業別実施状況

(%)

規模別		①実施済企業割合		②未実施企業割合				
	31~50人	99.8%	(99.8%)	0.2%	(0.2%)			
51~100人	100.0%	(99.8%)	0.0%	(0.2%)				
101~300人	99.7%	(100.0%)	0.3%	(0.0%)				
301~500人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
501~1,000人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
1,001人以上	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
合計	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)				
産業別		31人以上	51人以上	31人以上	51人以上			
	農、林、漁業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%
鉱業、採石業、砂利採取業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
建設業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
製造業	100.0%	(99.7%)	100.0%	(99.5%)	0.0%	(0.3%)	0.0%	(0.5%)
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
情報通信業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
運輸、郵便業	99.4%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.6%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
卸売業、小売業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
金融業、保険業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
不動産業、物品賃貸業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
学術研究・専門・技術サービス業	100.0%	(95.8%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(4.2%)	0.0%	(0.0%)
宿泊業、飲食サービス業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
生活関連サービス業、娯楽業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
教育、学習支援業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
医療、福祉	99.7%	(100.0%)	99.6%	(100.0%)	0.3%	(0.0%)	0.4%	(0.0%)
複合サービス事業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
サービス業(他に分類されないもの)	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	99.9%	(99.9%)	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	0.1%	(0.1%)

※ ()内は、平成30年6月1日現在の数値。

表3-1 雇用確保措置実施企業における措置内容の内訳

(社、%)

	①定年制の廃止	②定年の引上げ	③継続雇用制度の導入	合計(①+②+③)
31~300人	44 (46)	377 (336)	1,135 (1,153)	1,556 (1,535)
	2.8% (3.0%)	24.2% (21.9%)	73.0% (75.1%)	100.0% (100.0%)
31~50人	24 (25)	194 (175)	442 (434)	660 (634)
	3.6% (3.9%)	29.4% (27.6%)	67.0% (68.5%)	100.0% (100.0%)
51~300人	20 (21)	183 (161)	693 (719)	896 (901)
	2.2% (2.3%)	20.4% (17.9%)	77.3% (79.8%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	12 (11)	102 (105)	114 (116)
	0.0% (0.0%)	10.5% (9.5%)	89.5% (90.5%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	44 (46)	389 (347)	1,237 (1,258)	1,670 (1,651)
	2.6% (2.8%)	23.3% (21.0%)	74.1% (76.2%)	100.0% (100.0%)
51人以上総計	20 (21)	195 (172)	795 (824)	1,010 (1,017)
	2.0% (2.1%)	19.3% (16.9%)	78.7% (81.0%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※「合計」は表1の「①実施済み」に対応している。

※「②定年の引上げ」は65歳以上の定年の定めを設けている企業、「③継続雇用制度の導入」は定年年齢が65歳未満だが継続雇用制度の年齢を65歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

表3-2 継続雇用制度の内訳

(社、%)

	①希望者全員65歳以上の継続雇用制度	②基準該当者65歳以上の継続雇用制度(経過措置適用企業)	合計(①+②)
31~300人	842 (815)	293 (338)	1,135 (1,153)
	74.2% (70.7%)	25.8% (29.3%)	100.0% (100.0%)
31~50人	358 (331)	84 (103)	442 (434)
	81.0% (76.3%)	19.0% (23.7%)	100.0% (100.0%)
51~300人	484 (484)	209 (235)	693 (719)
	69.8% (67.3%)	30.2% (32.7%)	100.0% (100.0%)
301人以上	58 (52)	44 (53)	102 (105)
	56.9% (49.5%)	43.1% (50.5%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	900 (867)	337 (391)	1,237 (1,258)
	72.8% (68.9%)	27.2% (31.1%)	100.0% (100.0%)
51人以上総計	542 (536)	253 (288)	795 (824)
	68.2% (65.0%)	31.8% (35.0%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表3-3 継続雇用先の内訳

(社、%)

	①自社のみ	自社以外の継続雇用先がある企業						小計(②~⑦)	合計(①~⑦)
		②自社、親会社・子会社	③自社、関連会社等	④自社、親会社・子会社、関連会社等	⑤親会社・子会社	⑥親会社・子会社、関連会社等	⑦関連会社等		
31~300人	1,109 (1,123)	20 (24)	4 (02)	1 (01)	1 (03)	0 (0)	0 (00)	26 (30)	1,135 (1,153)
	97.7% (97.4%)	1.8% (2.1%)	0.4% (0.2%)	0.1% (0.1%)	0.1% (0.3%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.3% (2.6%)	100.0% (100.0%)
31~50人	435 (426)	6 (06)	1 (01)	0 (00)	0 (01)	0 (0)	0 (00)	7 (08)	442 (434)
	98.4% (98.2%)	1.4% (1.4%)	0.2% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	1.6% (1.8%)	100.0% (100.0%)
51~300人	674 (697)	14 (18)	3 (01)	1 (01)	1 (02)	0 (0)	0 (00)	19 (22)	693 (719)
	97.3% (96.9%)	2.0% (2.5%)	0.4% (0.1%)	0.1% (0.1%)	0.1% (0.3%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.7% (3.1%)	100.0% (100.0%)
301人以上	88 (88)	10 (15)	0 (00)	4 (02)	0 (00)	0 (0)	0 (00)	14 (17)	102 (105)
	86.3% (83.8%)	9.8% (14.3%)	0.0% (0.0%)	3.9% (1.9%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	13.7% (16.2%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	1,197 (1,211)	30 (39)	4 (02)	5 (03)	1 (03)	0 (00)	0 (00)	40 (47)	1,237 (1,258)
	96.8% (96.3%)	2.4% (3.1%)	0.3% (0.2%)	0.4% (0.2%)	0.1% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	3.2% (3.7%)	100.0% (100.0%)
51人以上総計	762 (785)	24 (33)	3 (01)	5 (03)	1 (02)	0 (0)	0 (00)	33 (39)	795 (824)
	95.8% (95.3%)	3.0% (4.0%)	0.4% (0.1%)	0.6% (0.4%)	0.1% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	4.2% (4.7%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表4-1 60歳定年企業における定年到達者の状況

	企業数 (社)	定年到達者総数 (人)	継続雇用者数		うち子会社等・関連会社等 での継続雇用者数		定年退職者数 (継続雇用を希望しない者)		定年退職者数 (継続雇用を希望したが継続雇用されなかった者)		継続雇用の 終了による 離職者数 (人)
60歳定年企業で 定年到達者がいる企業等	762	2,668	2,329	87.3% (88.2%)	35	1.3% (1.9%)	333	12.5% (11.7%)	6	0.2% (0.0%)	477
うち女性	378	1,083	942	87.0% (91.3%)	3	0.3% (0.4%)	141	13.0% (8.8%)	0	0.0% (0.0%)	102

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※過去1年間(平成30年6月1日から令和元年5月31日)に60歳定年企業において定年年齢に到達した者について集計している。

※「継続雇用の終了による離職者数」は継続雇用制度における上限年齢に到達したことによる離職者の数。

表4-2 経過措置企業に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準の適用状況

	企業数 (社)	基準を適用できる 年齢に到達した者の総数 (人)	継続雇用者数 (基準に該当し引き続き継続雇用された者)		継続雇用終了者数 (継続雇用の更新を希望しない者)		継続雇用終了者数 (基準に該当しない者)	
経過措置適用企業で基準適用 年齢到達者(62歳)がいる企業	174	727	677	93.1% (94.8%)	45	6.2% (4.7%)	5	0.7% (0.5%)
うち女性	76	285	261	91.6% (97.8%)	24	8.4% (2.2%)	0	0.0% (0.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※平成30年6月1日から令和元年5月31日に経過措置適用企業(60歳、61歳、62歳、63歳定年企業)において基準適用年齢に到達した者について集計している。

表5 定年制の廃止および65歳以上定年企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	②65歳以上定年			合計 (①+②)	報告した全ての企業
		65歳	66～69歳	70歳以上		
31～300人	44 (46)	328 (301)	19 (15)	30 (20)	421 (382)	1,558 (1,537)
	2.8% (3.0%)	21.1% (19.6%)	1.2% (1.0%)	1.9% (1.3%)	27.0% (24.9%)	100.0% (100.0%)
31～50人	24 (25)	166 (151)	8 (08)	20 (16)	218 (200)	661 (635)
	3.6% (3.9%)	25.1% (23.8%)	1.2% (1.3%)	3.0% (2.5%)	33.0% (31.5%)	100.0% (100.0%)
51～300人	20 (21)	162 (150)	11 (07)	10 (04)	203 (182)	897 (902)
	2.2% (2.3%)	18.1% (16.6%)	1.2% (0.8%)	1.1% (0.4%)	22.6% (20.2%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	12 (11)	0 (00)	0 (00)	12 (11)	114 (116)
	0.0% (0.0%)	10.5% (9.5%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	10.5% (9.5%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	44 (46)	340 (312)	19 (15)	30 (20)	433 (393)	1,672 (1,653)
	2.6% (2.8%)	20.3% (18.9%)	1.1% (0.9%)	1.8% (1.2%)	25.9% (23.8%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	20 (21)	174 (161)	11 (07)	10 (04)	215 (193)	1,011 (1,018)
	2.0% (2.1%)	17.2% (15.8%)	1.1% (0.7%)	1.0% (0.4%)	21.3% (19.0%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

②「65歳以上定年」は表3-1の「②定年の引き上げ」に対応している。

「報告した全ての合計」は表1の「合計」に対応している。

表6 66歳以上働ける制度のある企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	② 66歳以上 定年	③ 希望者全員 66歳以上	④ 基準該当者 66歳以上	⑤ その他の制度 で66歳以上 まで雇用	合計① (①~③)	合計② (①~④)	合計③ (①~⑤)	報告した全ての企業
31~300人	44 (46)	49 (35)	152 (120)	153 (144)	182 (169)	245 (201)	398 (345)	580 (514)	1,558 (1,537)
	2.8% (3.0%)	3.1% (2.3%)	9.8% (7.8%)	9.8% (9.4%)	11.7% (11.0%)	15.7% (13.1%)	25.5% (22.4%)	37.2% (33.4%)	100.0% (100.0%)
31~50人	24 (25)	28 (24)	70 (52)	65 (62)	76 (70)	122 (101)	187 (163)	263 (233)	661 (635)
	3.6% (3.9%)	4.2% (3.8%)	10.6% (8.2%)	9.8% (9.8%)	11.5% (11.0%)	18.5% (15.9%)	28.3% (25.7%)	39.8% (36.7%)	100.0% (100.0%)
51~300人	20 (21)	21 (11)	82 (68)	88 (82)	106 (99)	123 (100)	211 (182)	317 (281)	897 (902)
	2.2% (2.3%)	2.3% (1.2%)	9.1% (7.5%)	9.8% (9.1%)	11.8% (11.0%)	13.7% (11.1%)	23.5% (20.2%)	35.3% (31.2%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	0 (0)	9 (09)	17 (13)	15 (16)	9 (09)	26 (22)	41 (38)	114 (116)
	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	7.9% (7.8%)	14.9% (11.2%)	13.2% (13.8%)	7.9% (7.8%)	22.8% (19.0%)	36.0% (32.8%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	44 (46)	49 (35)	161 (129)	170 (157)	197 (185)	254 (210)	424 (367)	621 (552)	1,672 (1,653)
	2.6% (2.8%)	2.9% (2.1%)	9.6% (7.8%)	10.2% (9.5%)	11.8% (11.2%)	15.2% (12.7%)	25.4% (22.2%)	37.1% (33.4%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	20 (21)	21 (11)	91 (77)	105 (95)	121 (115)	132 (109)	237 (204)	358 (319)	1,011 (1,018)
	2.0% (2.1%)	2.1% (1.1%)	9.0% (7.6%)	10.4% (9.3%)	12.0% (11.3%)	13.1% (10.7%)	23.4% (20.0%)	35.4% (31.3%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※66歳以上定年制度と66歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「②66歳以上定年」のみに計上している。

※「⑤その他の制度で66歳以上まで雇用」とは、希望者全員や基準該当者を66歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで66歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

※「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表7 70歳以上働ける制度のある企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	② 70歳以上 定年	③ 希望者全員 70歳 以上	④ 基準該当者 70歳 以上	⑤ その他の制度 で70歳以上 まで雇用	合計① (①~③)	合計② (①~④)	合計③ (①~⑤)	報告した全ての企業
31~300人	44 (46)	30 (20)	145 (116)	148 (136)	182 (169)	219 (182)	367 (318)	549 (487)	1,558 (1,537)
	2.8% (3.0%)	1.9% (1.3%)	9.3% (7.5%)	9.5% (8.8%)	11.7% (11.0%)	14.1% (11.8%)	23.6% (20.7%)	35.2% (31.7%)	100.0% (100.0%)
31~50人	24 (25)	20 (16)	66 (50)	63 (59)	77 (72)	110 (91)	173 (150)	250 (222)	661 (635)
	3.6% (3.9%)	3.0% (2.5%)	10.0% (7.9%)	9.5% (9.3%)	11.6% (11.3%)	16.6% (14.3%)	26.2% (23.6%)	37.8% (35.0%)	100.0% (100.0%)
51~300人	20 (21)	10 (04)	79 (66)	85 (77)	105 (97)	109 (91)	194 (168)	299 (265)	897 (902)
	2.2% (2.3%)	1.1% (0.4%)	8.8% (7.3%)	9.5% (8.5%)	11.7% (10.8%)	12.2% (10.1%)	21.6% (18.6%)	33.3% (29.4%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	0 (0)	8 (08)	16 (13)	15 (16)	8 (08)	24 (21)	39 (37)	114 (116)
	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	7.0% (6.9%)	14.0% (11.2%)	13.2% (13.8%)	7.0% (6.9%)	21.1% (18.1%)	34.2% (31.9%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	44 (46)	30 (20)	153 (124)	164 (149)	197 (185)	227 (190)	391 (339)	588 (524)	1,672 (1,653)
	2.6% (2.8%)	1.8% (1.2%)	9.2% (7.5%)	9.8% (9.0%)	11.8% (11.2%)	13.6% (11.5%)	23.4% (20.5%)	35.2% (31.7%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	20 (21)	10 (04)	87 (74)	101 (90)	120 (113)	117 (99)	218 (189)	338 (302)	1,011 (1,018)
	2.0% (2.1%)	1.0% (0.4%)	8.6% (7.3%)	10.0% (8.8%)	11.9% (11.1%)	11.6% (9.7%)	21.6% (18.6%)	33.4% (29.7%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

※70歳以上定年制度と70歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「②70歳以上定年」のみに計上している。

※「⑤その他の制度で70歳以上まで雇用」とは、希望者全員や基準該当者を70歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで70歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

※「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

(参考) 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

(社、%)

	①	②	③	合計 (①+②+③)	報告した全ての企業
	定年制の廃止	65歳以上定年	希望者全員65歳以上の継続雇用制度		
31~300人	44 (46)	377 (336)	842 (815)	1,263 (1,197)	1,558 (1,537)
	2.8% (3.0%)	24.2% (21.9%)	54.0% (53.0%)	81.1% (77.9%)	100.0% (100.0%)
31~50人	24 (25)	194 (175)	358 (331)	576 (531)	661 (635)
	3.6% (3.9%)	29.3% (27.6%)	54.2% (52.1%)	87.1% (83.6%)	100.0% (100.0%)
51~300人	20 (21)	183 (161)	484 (484)	687 (666)	897 (902)
	2.2% (2.3%)	20.4% (17.8%)	54.0% (53.7%)	76.6% (73.8%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	12 (11)	58 (52)	70 (63)	114 (116)
	0.0% (0.0%)	10.5% (9.5%)	50.9% (44.8%)	61.4% (54.3%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	44 (46)	389 (347)	900 (867)	1,333 (1,260)	1,672 (1,653)
	2.6% (2.8%)	23.3% (21.0%)	53.8% (52.5%)	79.7% (76.2%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	20 (21)	195 (172)	542 (536)	757 (729)	1,011 (1,018)
	2.0% (2.1%)	19.3% (16.9%)	53.6% (52.7%)	74.9% (71.6%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成30年6月1日現在の数値。

「希望者全員が65歳以上まで働ける企業」は「定年制の廃止」、「65歳以上定年」及び「希望者全員65歳以上の継続雇用制度」の合計である。

「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表8 都道府県別の状況

(%)

	雇用確保措置導入企業割合		66歳以上働ける制度のある企業割合		70歳以上働ける制度のある企業割合	
北海道	99.8%	(99.7%)	31.3%	(26.4%)	29.5%	(24.8%)
青森	99.9%	(100.0%)	35.7%	(32.2%)	32.8%	(29.2%)
岩手	99.7%	(99.6%)	35.9%	(31.7%)	34.0%	(29.6%)
宮城	99.9%	(99.7%)	33.2%	(29.9%)	30.4%	(27.3%)
秋田	99.9%	(99.9%)	45.5%	(42.4%)	43.7%	(40.0%)
山形	99.9%	(99.7%)	29.8%	(25.4%)	27.9%	(23.6%)
福島	99.7%	(99.7%)	32.0%	(28.4%)	29.3%	(25.7%)
茨城	100.0%	(99.9%)	31.4%	(26.8%)	29.5%	(25.2%)
栃木	100.0%	(100.0%)	31.1%	(28.5%)	29.2%	(26.8%)
群馬	99.9%	(99.7%)	30.2%	(27.3%)	28.6%	(25.7%)
埼玉	99.5%	(99.6%)	34.3%	(30.6%)	32.5%	(28.7%)
千葉	99.9%	(99.6%)	38.4%	(34.6%)	36.6%	(33.0%)
東京	99.8%	(99.8%)	23.7%	(20.5%)	22.3%	(19.2%)
神奈川	99.9%	(99.9%)	28.6%	(25.6%)	26.9%	(23.9%)
新潟	100.0%	(99.8%)	33.8%	(30.4%)	32.0%	(28.6%)
富山	100.0%	(100.0%)	37.4%	(35.2%)	35.2%	(33.2%)
石川	99.8%	(99.8%)	28.4%	(25.6%)	26.7%	(24.3%)
福井	99.8%	(100.0%)	30.5%	(27.5%)	28.0%	(25.2%)
山梨	100.0%	(100.0%)	30.0%	(26.7%)	28.7%	(25.7%)
長野	100.0%	(100.0%)	34.3%	(31.2%)	32.3%	(29.5%)
岐阜	100.0%	(99.9%)	38.0%	(34.9%)	35.8%	(32.7%)
静岡	99.8%	(99.5%)	33.4%	(29.9%)	31.3%	(27.9%)
愛知	100.0%	(99.9%)	33.3%	(30.2%)	31.3%	(28.1%)
三重	100.0%	(100.0%)	35.2%	(32.3%)	33.2%	(30.5%)
滋賀	99.7%	(99.4%)	31.7%	(29.4%)	29.4%	(26.9%)
京都	99.9%	(99.5%)	28.6%	(25.2%)	27.2%	(23.9%)
大阪	99.8%	(99.6%)	27.4%	(25.2%)	25.6%	(23.6%)
兵庫	99.9%	(99.7%)	27.6%	(25.3%)	25.5%	(23.3%)
奈良	99.5%	(99.2%)	38.0%	(33.6%)	35.2%	(30.9%)
和歌山	100.0%	(99.7%)	32.7%	(30.2%)	30.3%	(28.0%)
鳥取	100.0%	(99.9%)	30.6%	(28.9%)	27.3%	(26.4%)
島根	100.0%	(100.0%)	39.7%	(35.6%)	37.3%	(33.5%)
岡山	99.8%	(99.7%)	32.7%	(28.3%)	30.5%	(26.7%)
広島	99.5%	(99.3%)	32.0%	(28.0%)	30.0%	(26.1%)
山口	99.9%	(99.9%)	37.1%	(33.4%)	35.2%	(31.7%)
徳島	100.0%	(99.8%)	34.5%	(32.6%)	32.1%	(30.1%)
香川	100.0%	(99.9%)	34.9%	(31.8%)	32.5%	(29.0%)
愛媛	99.7%	(99.7%)	33.4%	(30.5%)	32.4%	(29.4%)
高知	100.0%	(99.8%)	28.7%	(25.6%)	27.4%	(24.2%)
福岡	100.0%	(99.9%)	32.2%	(29.1%)	30.6%	(27.7%)
佐賀	99.8%	(99.7%)	30.8%	(28.0%)	28.0%	(25.1%)
長崎	99.1%	(99.7%)	31.8%	(28.7%)	30.8%	(27.6%)
熊本	99.8%	(99.7%)	31.0%	(27.1%)	28.9%	(24.9%)
大分	100.0%	(100.0%)	40.1%	(36.3%)	37.5%	(33.5%)
宮崎	99.9%	(100.0%)	37.5%	(33.9%)	35.2%	(31.8%)
鹿児島	99.5%	(99.5%)	33.9%	(30.0%)	31.5%	(28.1%)
沖縄	99.4%	(99.5%)	25.6%	(22.6%)	24.6%	(21.7%)
全国計	99.8%	(99.8%)	30.8%	(27.6%)	28.9%	(25.8%)

あ

※本集計は原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本票の「雇用確保措置導入企業割合」については、小数点第2位以下を四捨五入することで100%となる場合は、小数点第2位以下を切り捨てとしている。

表9 年齢別常用労働者数

(人)

		年齢計		60歳以上合計		60～64歳		65歳以上		うち70歳以上	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
規模企業 51人以上	平成17年	163,484人	(100.0)	10,295人	(100.0)	7,310人	(100.0)	2,985人	(100.0)		
	平成18年	171,843人	(105.1)	11,140人	(108.2)	7,795人	(106.6)	3,345人	(112.1)		
	平成19年	179,431人	(109.8)	14,161人	(137.6)	10,021人	(137.1)	4,140人	(138.7)		
	平成20年	181,266人	(110.9)	16,407人	(159.4)	11,852人	(162.1)	4,555人	(152.6)		
	平成21年	181,133人	(110.8)	17,956人	(174.4)	13,033人	(178.3)	4,923人	(164.9)		
	平成22年	188,294人	(115.2)	20,831人	(202.3)	14,936人	(204.3)	5,895人	(197.5)		
	平成23年	189,913人	(116.2)	21,655人	(210.3)	16,240人	(222.2)	5,415人	(181.4)		
	平成24年	189,160人	(115.7)	21,592人	(209.7)	16,002人	(218.9)	5,590人	(187.3)		
	平成25年	191,071人	(116.9)	22,426人	(217.8)	15,851人	(216.8)	6,575人	(220.3)	1,526人	(100.0)
	平成26年	198,278人	(121.3)	23,726人	(230.5)	15,972人	(218.5)	7,754人	(259.8)	1,745人	(114.4)
	平成27年	199,499人	(122.0)	24,196人	(235.0)	15,503人	(212.1)	8,698人	(291.4)	1,945人	(127.5)
	平成28年	210,846人	(129.0)	25,900人	(251.6)	15,608人	(213.5)	10,292人	(344.8)	2,215人	(145.2)
	平成29年	207,515人	(126.9)	27,311人	(265.3)	15,468人	(211.6)	11,843人	(396.8)	3,038人	(199.1)
	平成30年	209,574人	(128.2)	28,844人	(280.2)	15,618人	(213.7)	13,226人	(443.1)	4,005人	(262.5)
令和元年	211,067人	(129.1)	29,698人	(288.5)	15,599人	(213.4)	14,099人	(472.3)	4,776人	(313.0)	
規模企業 31人以上	平成21年	202,925人	(100.0)	21,338人	(100.0)	15,328人	(100.0)	6,010人	(100.0)		
	平成22年	210,028人	(103.5)	24,254人	(113.7)	17,338人	(113.1)	6,916人	(115.1)		
	平成23年	212,472人	(104.7)	25,424人	(119.1)	18,903人	(123.3)	6,521人	(108.5)		
	平成24年	211,844人	(104.4)	25,502人	(119.5)	18,681人	(121.9)	6,821人	(113.5)		
	平成25年	214,124人	(105.5)	26,472人	(124.1)	18,465人	(120.5)	8,007人	(133.2)	1,879人	(100.0)
	平成26年	221,498人	(109.2)	28,060人	(131.5)	18,567人	(121.1)	9,493人	(158.0)	2,174人	(115.7)
	平成27年	223,166人	(110.0)	28,649人	(134.3)	17,963人	(117.2)	10,686人	(177.8)	2,443人	(130.0)
	平成28年	234,902人	(115.8)	30,500人	(142.9)	18,022人	(117.6)	12,478人	(207.6)	2,791人	(148.5)
	平成29年	232,131人	(114.4)	32,237人	(151.1)	17,912人	(116.9)	14,325人	(238.4)	3,747人	(199.4)
	平成30年	234,386人	(115.5)	34,196人	(160.3)	18,128人	(118.3)	16,068人	(267.4)	4,928人	(262.3)
	令和元年	236,829人	(116.7)	35,346人	(165.6)	18,165人	(118.5)	17,181人	(285.9)	5,927人	(315.4)

※()は平成17年を100とした場合の比率(31人以上は平成21年を100とした場合の比率、70歳以上は平成25年を100とした場合の比率)

令和元年「高年齢者の雇用状況」集計結果の概要

〈集計対象〉山口県内の常時雇用する労働者が31人以上の企業1,672社 〈大企業(301人以上規模) :114社、中小企業(31~300人規模) : 1,558社〉

1 65歳までの「高年齢者雇用確保措置※」のある企業の状況

※ 高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第9条第1項に基づく、①定年制の廃止、②定年の引上げ、③継続雇用制度(再雇用制度)の3つの措置をいう。

(1) 高年齢者雇用確保措置の実施状況

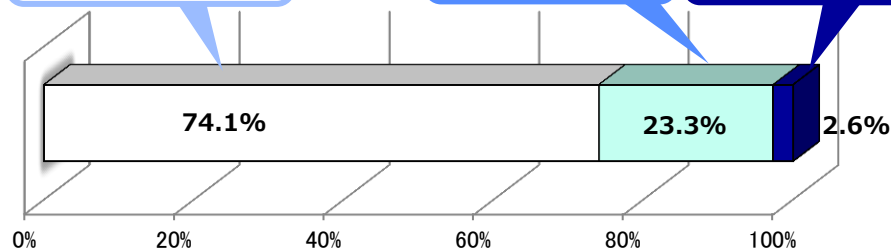
雇用確保措置の実施企業99.9% (変動なし)

【実施企業1,670社の措置内】

継続雇用制度の導入
1,237社

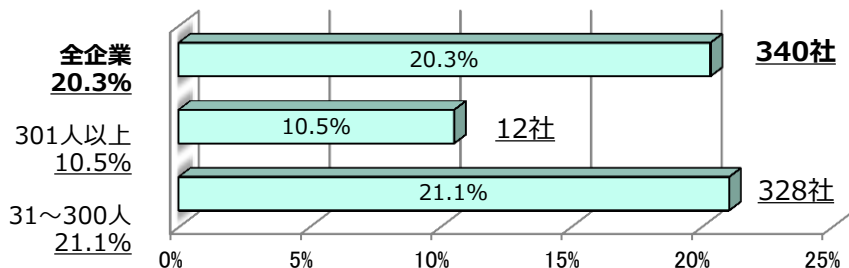
定年の引上げ
389社

定年制の廃止
44社



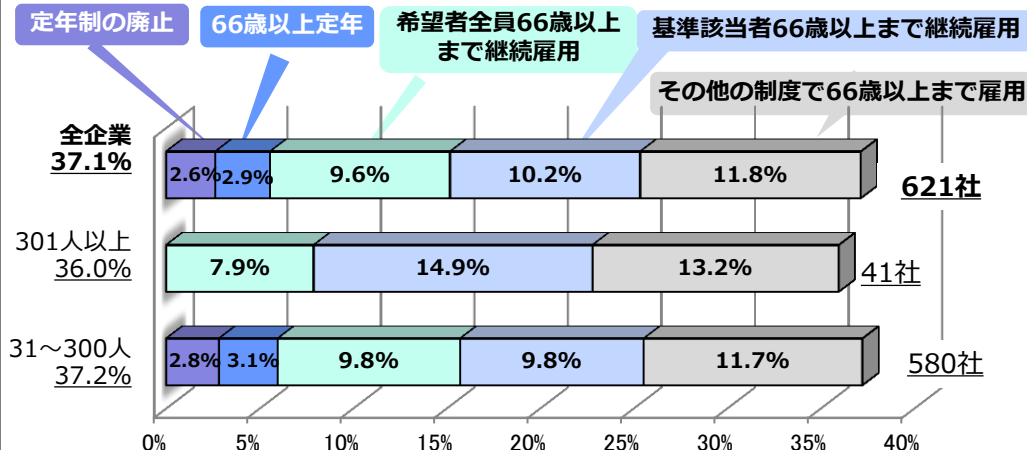
(2) 65歳定年企業の状況

65歳定年企業は、20.3% (1.4ポイント増加)



2 66歳以上働ける制度のある企業の状況

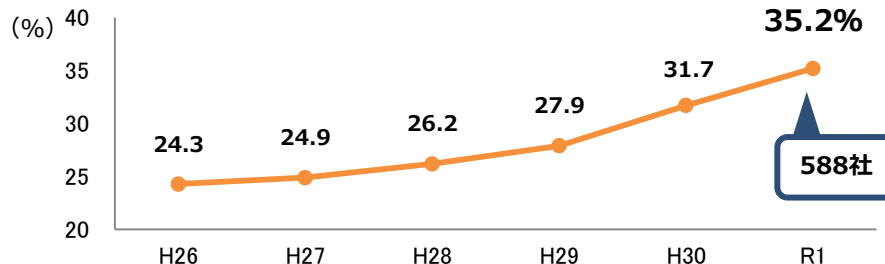
66歳以上働ける制度のある企業は37.1% (3.7ポイント増加)



※ 「⑤その他の制度で66歳以上まで雇用」とは、希望者全員や基準該当者を66歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで66歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。
※ 前年度の⑤を除いた合計は特別集計の結果22.2% (本年度は25.3%)。

3 70歳以上働ける制度のある企業の状況

70歳以上働ける制度のある企業は35.2% (3.5ポイント増加)



(注)構成割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、必ずしも合計と一致しない。